

令和6年9月10日 学校関係者評価会議 議事録

参加者：

- 地域代表
 - 業界識者
 - オンライン参加：実務経験者、地域代表、識者、業界識者
-

1. 自己点検評価について

- 結果公表方法：3段階評価（A：できている、B：ぼちぼち、C：できていない、認識できない）
 - 地域代表：4段階評価に変更し、AとBをポジティブな評価にすることでバランスが良くなるのではないかと。
 - 識者：自己点検はしっかり行われており、現状は良好と考える。
 - 地域代表：課外活動や地域連携は良いが、検定や本来の学業に関してはどうか。
 - 識者：退学率が改善されている。特に5期生、6期生は少数だったため、手厚いサポートができた。
-

2. 給与制度について

- 識者：現在、給与制度は準備中だが、進捗が遅れている。赤字でも給与を引き上げるべきとの田中理事長の指示により、一部改善がなされた。
 - 地域代表：昨年よりは改善された点について安心している。
 - 理事長：昨年との対比ができるようにすると良い。次回の課題として、3年分のデータを比較できるように。
-

3. 財務状況と学生数

- 校長からの報告：
 - 財務は今回の報告から省かれたが、学生数は120名に回復。財務的には苦しい状況が続く。
 - 貸借対照表（BS）や事業活動収支（PL）の推移についても言及。3月時点で未収金が約300万円、減価償却が約400万円。
 - 定員充足率は52%（121名）。10月には日本語科に20名が入学予定。
 - 2027年4月に定員を増やしたいとの意向。日本語科は既存の教室を使用予定。

4. 地域代表の懸念点

- キャッシュフローの問題はないが、資金ショートが発生していないか確認。
- 債務超過が法人認定や日本語教育機関の認定に影響する可能性を指摘。2024年4月から文科省の認定を受ける必要があり、5年以内に再申請し認定を受けないといけない。
- 企業からの寄付が必要になる見込み。

5. 学費の値上げに関する議論

- **業界識者**：コロナ禍の影響でこれまで学費の値上げを猶予されてきたが、今後はインフレを考慮し、値上げを検討すべきとの意見。2割以上の値上げが必要かもしれない。
- **地域代表**：学生に不都合が生じないかを確認。
- **校長**：学生サポートは積極的に行っており、住居やアルバイトの支援も強化している。

6. 今後の学生数の見込み

- **識者**：学生数は今後も右肩上がりを見込んでおり、その背景にある理由について説明。
- **実務経験者**：介護奨学金が導入され、国際ビジネス学科でも奨学金制度が課題となっている。

7. 将来の展望と提案

- **実務経験者**：コロナ前の状況と比較して、学生を大事にしつつ授業料の値上げも視野に入れておく必要があると指摘。
 - **理事長**：NECとの連携に関して、岡山県のIT企業との協力を今後検討しているとの報告。
-